

# 子ども室を考える（第4報）

## 家具と配置

荻野 妙子

### 目 的

子ども部屋は子どもの世界でも決して全てではないが、重要な一部分を占めている。その個人スペースとしての子ども部屋をときにはベッドルームとして、ときにはプレイルームとして検討してみたいと思う。

### 広さについて

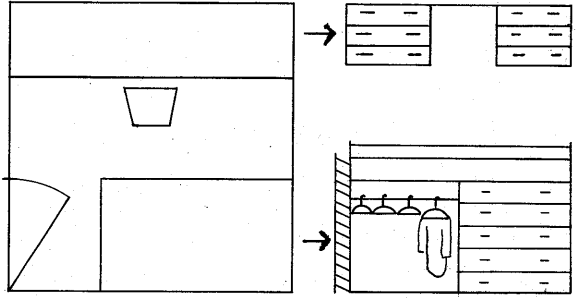
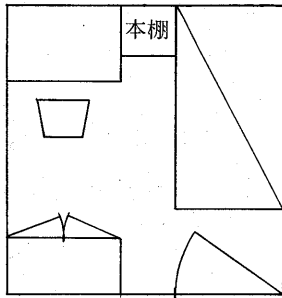
部屋の規模にたいする好みは社会文化的傾向であると考えられるので、子ども部屋の理想規模を一般化することはできない。たとえばバクストンのアメリカでの調査の検討結果と英国建築研究所の調査（助成金をうけている住宅の入居者を対象とした）についてのディックの検討結果とを比較すると次のようになる。アメリカ人の場合  $3\text{ m} \times 4.5\text{ m}$ （約  $14\text{ m}^2$ ）であり、つぎに好まれるのが  $2.7\text{ m} \times 3.6\text{ m}$ （約  $10\text{ m}^2$ ）である。イギリスの賃貸住宅の入居者の場合には質問対象となったグループで、 $8.2 \sim 8.7\text{ m}^2$ では不満をもらしているものは全体の5分の1にすぎなかったということである。これら住宅の間取り、規模、ベッドルーム、その付属スペースの使い方は国によりまた同じ国でも階級によりさまざまである。さて日本の場合この数値と照合してみると、アメリカの  $14\text{ m}^2$ といえは8～9畳、イギリスの  $8.2 \sim 8.7\text{ m}^2$ の場合4～6畳位の広さとなる。この広さの差をどのように解決していくか、機能的でかつ居心地の良い部屋作りの上で大きな要素を占めると言えよう。いかに広く見せるか、そして、ライフサイクルを考えた上での将来の増改築の方向性なども考慮に入れなければならない。増改築とまでいかななくても少くとも室の模様替えは必要となってくるであろう。

### 機 能

子ども室の機能というと睡眠場所であり、勉強部屋であり、遊び場であり、更衣室である。となると、これらの機能を果たすためにベッド又はふとん、タンス、机、整理棚などが必要になってくる。前の項でのべたように広さは、いくらでもとってよいというわけではない。ある一定の広さの中に使用目的に合わせて配置しなければならない。

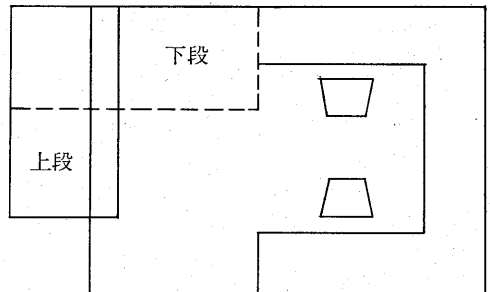
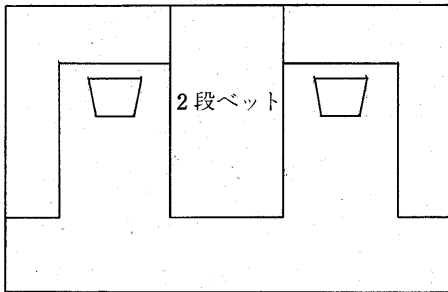
そのため家具なども、空間を合理的に工夫されたものを使う必要があると思う。その大きな要素は収納の合理化であり、適当な配置であると思う。日照・通風、などの自然の良きものをも考慮にに入れた配置にも心がけなければならない。

一人で



ベッドの下に収納を

一部屋を二人で共用する場合の工夫（6畳）



中央に二段ベッドを置き、左右対称にカウンター式の収納にも使える棚を置く。

押し入れの部分を利用して、下の段のベッドの足もとが押し入れに入るようにして上段はそのままベッドに使い下段のあいたところにタンスを置く。

## 結 び

子どもの成長にあわせた子ども室の家具選びと家具の配置をいろいろと考えてみたが、子ども自身が、使いやすく安全で、かつ快適に過ごせるよう“成長の個人差”また個性のある部屋作りを心がけたいと思う。

家の立地条件、部屋数、家族構成、生活様式、自然環境によりいろいろと条件が異なるがまず一番に考えたいのが住む人にとっての居心地の良さ、使い勝手の良さであろう。

今後それらのことを心がけながら研究をすすめて行きたいと思う。

## 参考文献

- アンネニマリー・ポロウイ著  
「子どものための生活空間」  
— 住環境における子どもたち —
- モダンリビング 69 マンションのインテリア
- 「住宅のインテリア」；佐藤泰徳著

最後に、この稿をまとめるにあたり、御指導いただいた塩川 旭先生に深く感謝いたします。